

# 研究計画の概要

唐津市立簗木小学校

校長 藤田 郁夫 

1 研究主題名 主体的に考え、判断し、行動する児童の育成  
～合科・関連的単元による授業実践とカリキュラム・マネジメントを通して～

## 2 研究主題設定の趣旨

私たちの社会には、環境問題、食糧問題、資源・エネルギー問題、人権と平和の問題など国境を越えての連帯と調整が必要な難問が山積している。そして、一人ひとりが自立した人間として多様な他者と協働し、状況の変化に創造的に対応していく資質・能力の育成が求められている。そのため、学習指導要領総則では、社会に開かれた教育課程の充実とカリキュラム・マネジメントに努め、質の高い理解を図るための「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」の必要性が述べられている。

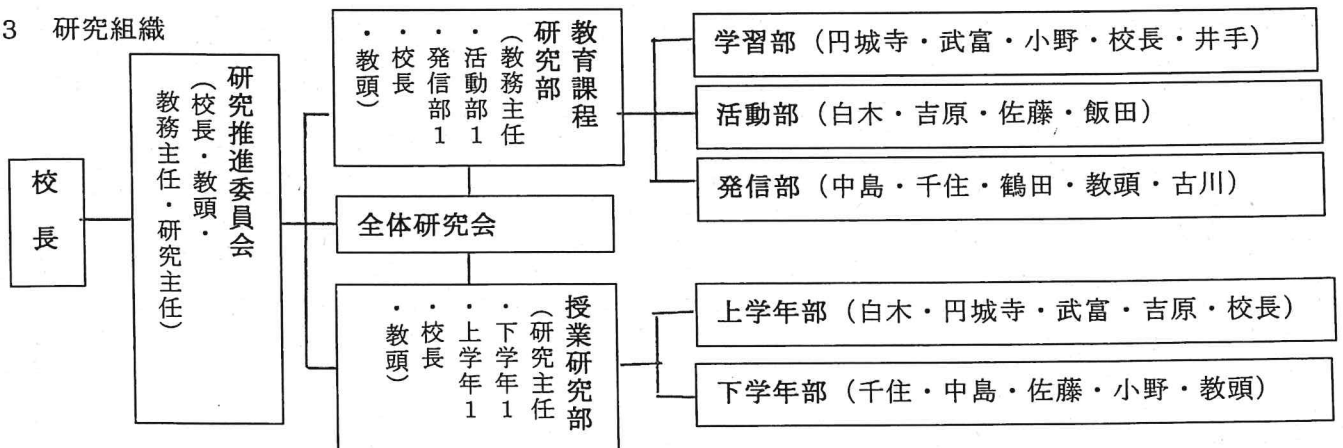
本校が育成を目指す児童像は「主体的に考え、判断し、行動する子ども」である。これまで、本校では平成28年度より4年間、各教科等における記述力の土台となる言語操作力と思考操作力を育成するために特設の時間「レインボータイム」を設定し、カリキュラム開発と授業実践に取り組んできた。その結果、ねらいや条件に沿った記述を意識する児童が増え、教師自身も様々な教科等で言語操作と思考操作を働かせる指導を行うことができた。しかし、児童自身が探究過程を振り返って次の学びにつなげるための工夫、言語操作力・思考操作力と各教科の知識・技能等を関連付けて深い学びへつなげる手立ての構築が課題であった。

そこで、学習指導要領の実施初年度に当たる研究一年次（昨年度）は、育成すべき資質・能力を「進んで学び続ける力」「自ら考えを広げ深める力」と設定し、各教科と「レインボータイム」との関連を矢印等で示した合科・関連的単元配列表を編成した。そして、各教科の見方・考え方や知識・技能を関連付け・整理・表現する過程を視覚化する授業と学校行事等で学びを発揮する工夫を行った。その成果として、既習内容等を他教科に活かそうとする主体性や自己肯定感の高まり、国語科では根拠を、算数科では式や図、算数用語を関連付けて説明・記述しようとする児童の意識変容が見られた。

研究二年時の今年度は、さらに合科・関連的単元構想による授業実践を重ね、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。具体的には、授業研究部では、児童が思考を関連付け・整理・表現することができるワークシートを開発することで指導と評価の一体化を図る。そして、教育課程研究部では、合科・関連的単元配列表を改善し、新型コロナウイルス感染症に対応する「新しい生活様式」での「学びの保障」に向け、3部（学習部・活動部・発信部）組織と地域連携による教育活動を実施し、多面的・多角的評価に基づいたPDCAサイクルを確立することで、カリキュラム・マネジメントの効果を明らかにしていく。

合科・関連的単元構想による授業実践と多面的・多角的評価を活かしたカリキュラム・マネジメントを通して、課題解決に向け見通しをもって追求し、次の学びや実生活に活かす主体性と、自らの考えを広げ深める力の育成を図っていきたいと考え、本主題を設定した。

## 3 研究組織



## 研究の目標

課題解決に向け見通しをもって追求し、次の学びや実生活に活かす主体性と、自らの考えを広げ深める力を育成するために、合科・関連的単元構想による各教科等の見方・考え方や知識・技能を関連付け・整理・表現する過程を視覚化する授業実践と多面的・多角的評価に基づいたカリキュラム・マネジメントの在り方を探る。

## 研究の仮説

合科的・関連的単元構想による各教科の見方・考え方や知識・技能を関連付け・整理・表現する過程を視覚化する授業実践と多面的・多角的評価に基づいたカリキュラム・マネジメントを行えば、課題解決に向け見通しをもって追求し、次の学びや実生活に活かす主体性を持ち、自ら考えを広げ深めようとする児童を育成することができるであろう。

## 4 研究内容

- (1) 学びの保障に向けた教育課程や授業づくり、多面的・多角的評価に関する理論研究  
ア カリキュラム・マネジメントや授業づくり、多面的・多角的評価に関する理論研究  
イ 講師招聘による全体研修会
- (2) 「進んで学び続ける力」「自ら考えを広げ深める力」育成を目指した合科・関連的単元構想による授業実践とその検証（授業研究部）  
ア 指導案検討会と相互授業参観・授業研究会を通じた合科・関連的単元構想の実践の検証  
イ 各教科の見方・考え方や知識・技能，他者との対話をつなげて関連付け・整理・表現する場面の可視化を目指した授業づくりと児童の思考の流れが分かるワークシートの開発・改善  
ウ 児童の学びの自己評価の研究
- (3) 「新しい生活様式」の下での学びの保障に向け，3部（学習部・活動部・発信部）組織と地域との連携による教育活動を実施し，多面的・多角的評価に基づいたカリキュラム・マネジメントの確立とその検証（教育課程研究部）  
ア 合科・関連的単元配列表の改善と「新しい生活様式」下での教育課程の編成・実施と検証  
イ 特別活動の各活動，学校行事等における学びを活用・発揮する場面の具体化とキャリア・パスポートにおける児童の記述の見取りと評価  
ウ 地域人材を活用した教育活動の実施と「地域資源バンク年間計画表」更新，学習習慣作りや学びの成果物紹介等を定期的に情報発信する地域・保護者への広報活動  
エ 児童意識調査，全国学力・学習状況調査，県学力・学習状況調査による結果分析を授業改善へつなげる研修会実施，保護者や児童による学校評価アンケート・教師の自己評価の結果分析を活かしたPDCAサイクルの確立と検証

## 5 期待される成果

- (1) 教育課程の工夫や授業づくり，多面的・多角的評価に関する理論研究を行い，共通理解を深めることで，職員は合科・関連的単元構想による学習指導と多面的・多角的評価に取り組み，効果的に学びを保障するカリキュラム・マネジメントを推進することができる。
- (2) 合科・関連的単元構想による各教科の見方・考え方や知識・技能を関連付け・整理・表現する過程を視覚化し，児童が思考を関連付け・整理・表現することができるワークシートを活用した授業実践を通して，課題解決に向けて見通しをもって追求し，次の学びや実生活に活かす主体性を持ち，自ら考えを広げ深める児童の姿が見られ，教師は指導と評価の一体化を図ることができる。
- (3) 学校行事等において，学びを活用・発揮する場面を工夫し，行事前後にキャリア・パスポートに記述させる時間を設定することで，自ら学びをふり返り，実生活での行動化へつなげる児童の姿が見られる。
- (4) 児童の学びを可視化する学習環境づくりと「地域資源バンク年間計画表」を活かした地域人材活用授業の充実等を地域・保護者へ情報発信することで，学びを価値付けして次へつなげようとする児童の主体性を育み，地域・保護者との連携を図ることができる。